

登録コード	UAC46500	開講年度	2026			
授業題目	ドイツ語学・ドイツ文学研究				担当教員	磯部 美穂
					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・4時限	
				授業形態	講義	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学					
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				ドイツ語圏の歴史、社会、言語に関する知見を深め、言語史・言語学領域の問題を追及し、理論を構築できるようになる。	
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				言語史、言語研究の基礎的な研究手法を修得し、実践的な調査・分析ができるようになる。	
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				ドイツ語で書かれた文献を読み、自ら問題を提起し、自身のことばで説明できるようになる。	
(2)授業の概要	ドイツ語造語論の研究方法について理解し、それに基づいて実際のドイツ語テキストの分析・解釈をおこなっていく。授業の目標を達成するために、授業は教員による講義・質問と受講生による課題発表・質問を往還的に行うアクティブ・ラーニングの形式をとる。					
(3)授業計画	第1回：導入、ドイツ語の造語とは何か 第2回：共時的視点（1）：語の合成（講義） 第3回：共時的視点（1）：語の合成（講義・課題発表） 第4回：共時的視点（2）：派生語の形成〔接頭辞〕（講義） 第5回：共時的視点（2）：派生語の形成〔接頭辞〕（講義・課題発表） 第6回：共時的視点（3）：派生語の形成〔接尾辞〕（講義） 第7回：共時的視点（3）：派生語の形成〔接尾辞〕（講義・課題発表） 第8回：現代ドイツ語テキストにみる語形成の傾向について（講義） 第9回：現代ドイツ語テキストにみる語形成の傾向について（講義・課題発表） 第10回：通時的視点（1）：派生動詞〔分離・非分離動詞の発展〕（講義） 第11回：通時的視点（1）：派生動詞〔分離・非分離動詞の発展〕（講義・課題発表） 第12回：通時的視点（2）：名詞合成語の発展傾向（講義） 第13回：通時的視点（2）：名詞合成語の発展傾向（講義・課題発表） 第14回：通時的視点（3）：外国語起源の構成語（講義） 第15回：通時的視点（3）：外国語起源の構成語（講義・課題発表） 期末試験は行わず、期末レポートを課す。					
(4)成績評価の方法	●以下を総合して判定する。 授業への取り組み方（50％）、レポート（50％） ＊評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀、89-80％ 優、79-70％ 良、69-60％ 可、59％以下 不可。					
(5)成績評価の基準	【卓越している】授業で扱われる項目を正確に理解し、それを自らの言葉で解説をおこなう理解力と表現力、それを基に問題を設定し、適切な方法論を用いて結論に導く問題分析・解決能力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】授業で扱われる項目を正確に理解し、それを自らの言葉で解説をおこなう理解力と表現力、それを基に問題を設定し、適切な方法論を用いて結論に導く問題分析・解決能力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある】授業で扱われる項目を正確に理解し、それを自らの言葉で解説をおこなう理解力と表現力、それを基に問題を設定し、適切な方法論を用いて結論に導く問題分析・解決能力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある】授業で扱われる項目を正確に理解し、それを自らの言葉で解説をおこなう理解力と表現力、それを基に問題を設定し、適切な方法論を用いて結論に導く問題分析・解決能力を総合して、一定水準にある。					
(6)事前事後学習の内容	教科書の該当箇所を事前に読み、議論の問題となりうる点を考えておくこと。また担当者は該当箇所の要約を作成すると共に、前回授業のディスカッションのプロトコルを提出する。					
(7)履修上の注意	高度なドイツ語読解能力があることを前提とする。					
(8)質問、相談への対応	オフィスアワー（金曜日12：10～12：50）あるいはメール(isobe@shinshu-u.ac.jp)にて時間を相談すること。					

【教科書】	Erben, Johannes (2000): Einfuehrung in die deutsche Wortbildungslehre. 4., Aufl., Berlin.
【参考書】	Linke, Angelika u.a. (2004): Studienbuch Linguistik, 5., Aufl. Tuebingen.